

---

令和 3 年度  
第 2 回狛江市青少年問題協議会小委員会  
会議資料

---

令和 3 年10月29日(金)

# 本日の説明の流れ

- ①：前回の会議での意見（スライド4）
- ②：本日の会議で御議論いただきたいこと（スライド5）
- ③：論点毎の方向性の整理（スライド6）
- ④：今後の青少年問題協議会の考え方について（提案）（スライド7）

## (再掲) 今後の青少年問題協議会のあり方の検討において想定される論点

進行

論点提示

論点①  
規定との乖離

論点②  
課題の変化

論点③  
類似の会議体

論点提示(再)

### 論点①：狛江市青少年問題協議会の役割のギャップ (P.5)

- ・「実際の所掌事項」と「規定上の役割」においてギャップが生じている。

御議論いただきたいこと

子ども・若者を取り巻く現状や課題を確認しながら協議会のあるべき姿を御議論

### 論点②：子ども・若者の今日的な課題の変化 (P.6)

- ・子ども・若者を取り巻く状況が「非行」というものから「複雑化（児童虐待、発達障がい、いじめ、不登校、ひきこもり、社会的孤立など）」かつ見えにくくなっている。  
⇒指導・育成・保護などに留まらず、専門的な機関による連携した支援が必要になってきている。

- ・子どもから若者までの切れ目のない支援が求められている。

### 論点③：類似の会議体の存在 (P.7)

- ・「子ども・子育て会議」の所掌と重なる部分や「青少年問題協議会」での議論の内容に整理が必要。
- ・「子育て応援プラン」+「子ども・若者計画」⇒「第2期子ども・若者応援プラン」の策定・進捗管理を子ども・子育て会議にて一体的に実施

参考

地方青少年問題協議会法に基づく地方青少年問題協議会「設置率」：**52.4%**（R2.1.1時点）

## 前回の会議での意見（一部抜粋）

### 役割のギャップについて

- ・今行っている事業に関して規定上とギャップがあるということであれば、あり方を整理していくべきであると思う。
- ・本協議会のあり方については、以前青少年問題協議会の実行部隊として存在した活動実施委員会という組織があったが、最終的には本小委員会との役割があいまいになり統合されたという経緯がある。それを踏まえると、本小委員会は活動するという意味合いも持つが、青少年について総会で議論がなされていない現在の状況では、本小委員会は議論と審議の場として存在すべきであると思う。
- ・小委員会といっても、現在ではすすくコンサートの実行委員と変わらないと感じる面もあるため、条例に則して役割を見直していく必要がある。
- ・自宅近くに健全育成の看板があるが、子ども達に啓発する効果があるかは疑問である。本小委員会は、色々な青少年関係の団体のメンバーが集まっているため、議論をしないのはもったいないと思う。色々な視点から意見を出すことで、協議会自体の中身も変わってくると思う。

### 類似の会議体について

- ・青少年問題協議会は、直接子どもに接している方が多く、現場を見ているという印象がある。子ども・子育て会議との整理も一案ではあると思うが、参加メンバーの数が多く発言の機会も限られる。青少年・若者の部分を議論の対象にすると、更にメンバーが増えてますます発言の機会が減るという一面もあると思う。
- ・子ども・子育て会議は、妊娠期から40～50歳代までとターゲットが幅広い。子ども・子育て会議との発展的な融合として、資料の通り青少年関係の委員がその会議体に委員として参加する事や、或いは、青少年・若者の問題に特化した会議体として本協議会を残し、代表として子ども・子育て会議に参加してもらう事などが考えられると思う。
- ・子どもの居場所作りなど、色々なところで似たようなことが話し合われていることもある。子ども・子育て会議が主体になって、例えば、青少年・若者の分野については分科会として進めていく、ということも一つの案として考えられる。
- ・子ども・子育て会議との整理など、本協議会の整理をしていくことは必要であるが、多少はゆるい整理の方が新陳代謝や新しい意見が取り入れやすいということを踏まえるとメリットもある。ただし、他団体の活動を知ることなど連携をしていくことも必要である。

## 本日の会議で御議論いただきたいこと

### 第1回

- ・ 今後の青少年問題協議会のあり方について、3つの論点に沿って課題を共有するとともに今後の方向性などを議論



### 第2回

- ・ 第1回でいただいた意見などを踏まえ、論点毎に方向性を確認（スライド13）
- ・ 論点毎の方向性を整理した上で、今後の青少年問題協議会のあり方について報告としてまとめる（スライド14）

## 論点毎の方向性の整理

### 論点①：狛江市青少年問題協議会の役割のギャップ

- ・「実際の所掌事項」と「規定上の役割」においてギャップが生じている。

### 論点②：子ども・若者の今日的な課題の変化

- ・子ども・若者を取り巻く状況が「非行」というものから「複雑化（児童虐待、発達障がい、いじめ、不登校、ひきこもり、社会的孤立など）」かつ見えにくくなっている。  
⇒指導・育成・保護などに留まらず、専門的な機関による連携した支援が必要になってきている。
- ・子どもから若者までの切れ目のない支援が求められている。

### 論点③：類似の会議体の存在

- ・「子ども・子育て会議」の所掌と重なる部分や「青少年問題協議会」での議論の内容に整理が必要。
- ・「子育て応援プラン」＋「子ども・若者計画」⇒「第2期子ども・若者応援プラン」の策定・進捗管理を子ども・子育て会議にて一体的に実施

### 方向性

- ・本来の目的に沿い、議論と審議の場としての整理

★青少年問題協議会設置条例設置目的：「～青少年の指導，育成，保護及びきょう正に関し調査審議～」

- ・虐待やいじめ、ひきこもりなど子どもの課題は多岐にわたる。現在の子ども・若者の課題・状況に則した事業整理や議論を展開

- ・所掌が類似する子ども・子育て会議との整理をしつつ、青少年・若者に関する議論の場として、分科会のような形を残しつつ整理

## 今後の青少年問題協議会のあり方について（提案）（案）

